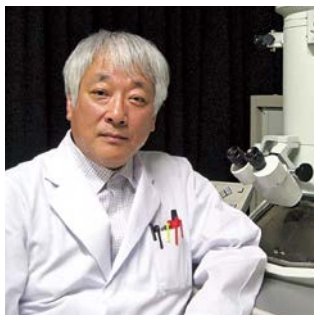


## 2017–2020 年 日本藻類学会事務局役員の退任の挨拶



会長  
**奥田 一雄**  
高知大学全学教育機構  
研究対象生物種：海産多核緑藻  
研究分野：植物形態学

標記期間の2期にわたって藻類学会会長を務めました奥田一雄でございます。このたびの退任にあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。

これまでの4年間、私が会長の任を果たすことができましたのは、一重に事務局役員のみなさまによる力強い支えとご協力があったからこそであります。庶務担当の峯一朗先生をはじめ、国内会員事務担当の上井進也先生、外国会員事務担当・海外担当の阿部信一郎先生と栗原暁先生、広報担当の加藤亜記先生、そして会計幹事の関田論子先生に対しまして厚く感謝し、心からお礼申し上げます。役員各位が自らの学会のためとはいえ、ボランティアで、かつ、誠実に学会業務を遂行されてこられましたことは、本事務局の代表者として大変誇りに思います。ありがとうございました。

評議員会のみなさまには、学会の庶務・会計に関する種々の業務運営内容の審議や、学術賞、特別賞、研究奨励賞そして論文賞を含む学会賞の選考と決定等にご尽力いただきまし

た。また、会則の改正や総会の実施方法を巡って多くの持ち回り評議員会を開催しました。厚くお礼申し上げます。

任期中に開催した藻類学会大会は、高知2017、仙台2018、京都2019。しかし、鹿児島2020は新型コロナウイルスの感染防止のために急遽開催を中止し、非常に残念な思いをしました。あらためてこれら藻類学会大会を企画・運営いただいた方々にお礼申し上げます。

藻類学会を学術面から支えていただいている英文誌および和文誌編集委員会のみなさんに対して深く感謝申し上げます。任期中に両方の編集長が交代しました。そのとき新たに引き継ぐ編集長の人選には会長自身も少なからず関わりました。英文誌では、今回初めて編集長2名の体制となりました。また、和文誌「藻類」の投稿規定が刷新されました。

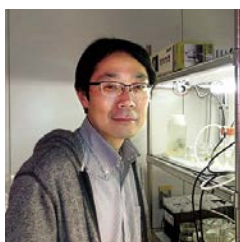
英文誌といえば、私が英文誌編集長のときに *Phycological Research* を ISI の Current Contents へ登録する申請を行い、審査の結果2004年に申請が受理され、2006年に *Phycological Research* に対して初の Impact Factor が出ました。この申請のために国内外の多くの著名な藻類研究者と植物研究者から素晴らしい推薦書をいただいたことが私にとって大きな思い出となっています。

小亀会長を筆頭に2021年度からスタートする新事務局におかれましては、新旧の引き継ぎが首尾よく完了し、これからも日本藻類学会の発展と藻類学の成果の発信のために無理なく取り組まれ、順調に進んでいかれますことを祈念いたします。



庶務幹事  
**峯 一朗**  
高知大学理工学部  
研究対象生物種：巨大細胞性藻類、葉状緑藻  
研究分野：細胞生物学

会員の皆様には4年間お世話になりましたことに有難うございました。



庶務幹事（国内会員事務担当）  
**上井 進也**  
神戸大学内海域環境教育研究センター  
研究対象生物種：褐藻、とくにホンダワラ類やコンブ目の仲間  
研究分野：集団遺伝学、系統分類学

前所属の新潟大学理学部のときから4年間、国内会員管理を担当させていただきました。仕事の内容として、会員の皆様

の入退会や異動の記録だけでなく、年会費の支払い状況の管理から学会誌送付先のデータ作成まで、いろいろな作業があり、良い経験をさせてもらったと思います。ちょうど仕事に慣れたところで異動したため、最後までドタバタしながら試行錯誤していました。なかなか行き届かず、たくさんの方にご迷惑をかけてしまった4年間だったように思います。最後になりましたが、助けてくださった皆様、ご迷惑をかけてしまった方々には、心からのお礼とお詫びを申し上げます。4年間ありがとうございました。



庶務幹事（海外会員・渉外担当）

阿部 信一郎（2018年まで）

茨城大学教育学部

研究対象生物種：河川生物，人  
研究分野：生態学，人と生物の関係

庶務幹事担当中は、事務局および会員の皆様にご大変お世話になりました。慣れないことばかりで、アタフタしていた当時は思い出します。



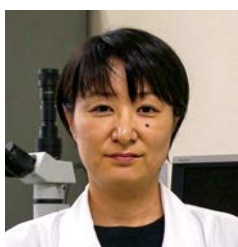
庶務幹事（広報担当）

加藤 亜記

広島大学大学院統合生命科学研究科

研究対象生物種：海藻類とくに紅藻サンゴモ類  
研究分野：系統分類，生理生態

今回のパンデミックを機に、オンラインでの会議や学会大会も1つの方法として定着していくかもしれないと感じました。事務局をはじめ会員の皆様には大変お世話になりました。



会計幹事

関田 諭子

高知大学総合科学系黒潮圏科学部門

研究対象生物種：渦鞭毛藻  
研究分野：細胞生物学

担当役職は変更しましたが前事務局からスライドする形で8年間…、この度お役御免となりました。多くの皆様にご大変お世話になり、本当にありがとうございました。

## 2021年—日本藻類学会事務局役員の新任の挨拶



会長

小亀 一弘

北海道大学大学院理学研究院

研究対象生物種：海藻類  
研究分野：分類学

日本藻類学会は、1952年11月11日に、山田幸男博士を発起人代表とする有志により設立され、翌年3月には会誌「藻類」第1号第1巻が刊行されています。今年は、創立69周年であり、来年70周年を迎えます。この記念すべき節目は、過去を振り返り未来を展望する良い機会です。創立60周年の時には、記念企画として、藻類図説DVDおよび日本藻類学者年表の作成、学会ロゴマークの制定が行われました。70周年においても、その後の糧となるような記念行事を行うことができたら素晴らしいだろうと考えています。

本学会は、藻類に興味がある方々が集まる学術団体です。

様々な方が集まり、興味の内容も教育、基礎研究、応用研究と多岐にわたります。藻類自体が多様ですから、その広がりは大変大きいものです。藻類を介して繋がりを求めるなら、本学会は最高と思いますが、交流の場としてさらに発展できるよう工夫していきたいと思っています。アイデアがありましたら、是非お寄せください。

本学会の英文誌「Phycological Research」は、Wileyから出版していますが、今年は5年契約の最終年で、契約更新の年です。近年は学術雑誌のオンライン出版化が進み、印刷体は縮小傾向であり、Phycological Researchも新規購読分はオンラインのみとなっています。今回の契約更新においても印刷体の廃止が検討事項としてあがると思いますが、評議員会で議論して契約更新を行いたいと思います。

本学会の会員は、約1,000名であり、そこそこ大きな学会ですが、庶務や会計など学会事務は、事務員を雇用せずに全て学会員がボランティアで行っています。近年は、どこも本務の仕事が忙しくなり、学会活動を行う余裕がなくなっていますので、事務局幹事業務だけでなく学会誌の編集業務も大きな負担となっています。これについては、良い解決策がなく、

頭が痛いところです。今回の新事務局で幹事を引き受けてくださった方々、また、学会誌の編集に携わっている方々には、大変感謝しております。

新型コロナウイルス感染症がパンデミックとなり、会員の皆様方も大きな影響を被っていることとお察しします。何時、もとの生活に戻ることができるのか、まだ予想も難しい状況

ですが、皆様におかれましては、何よりも感染に注意し、健康に気をつけていただきたく思います。

末筆となりましたが、今年と来年、事務局幹事の方々とともに、学会の円滑な運営に努めさせていただきますので、何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



庶務幹事

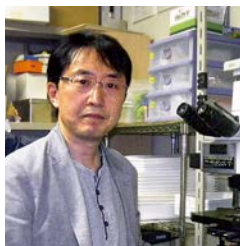
**阿部 剛史**

北海道大学総合博物館

研究対象生物種：海藻（ソソ）

研究分野：分類学，ケモタクソノミー

10年ほど前の堀口会長のときに会計を担当しておりました。堀口先生も小亀先生も会計幹事の経験者で、教えていただき何とか無事に務められました。庶務の内容はより多岐にわたるので、見落として周りに迷惑をかけぬよう努力したいと思っています。



庶務幹事（国内会員事務担当）

**山岸 幸正**

福山大学生命工学部海洋生物科学科

研究対象生物種：海藻

研究分野：系統分類学

少しでも海藻に興味を持ってもらえたらと、ゆるい海藻キャラクターのイラストを広報や授業資料などに登場させています。会費や会員情報等の業務を円滑に行うよう努めていきます。



ミル◎山岸



マクサ◎山岸



フクロノリ◎山岸



庶務幹事（外国会員事務担当）

**栗原 暁**（2019年より継続）

九州大学大学院農学研究院

研究対象生物種：主に大型藻類

研究分野：系統分類

本役職の主要な職務内容は、海外会員の会員更新手続き・会費決済手続き、英文誌投稿論文の超過ページ請求・決済手続き、英文誌出版社である Wiley への発送リストの取りまとめなどです。旧体制からの横滑りですが、新体制になっても誠心誠意務めて参ります。よろしくお願いいたします。



庶務幹事（広報担当）

**吉川 伸哉**

福井県立大学海洋生物資源学部

研究対象生物種：褐藻，パルマ藻

研究分野：植物生理学

HPを扱うのは初めての経験ですが、学会からの情報発信が滞らないように頑張ります。



会計幹事

**四ツ倉 典滋**

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター

研究対象生物種：コンブ類

研究分野：多様性，保全，育種

経験豊かな役員の方々とともに、学会の円滑な運営に努めたいと思います。よろしくお願い申し上げます。